

幾代会 観察会(2022年10月)のまとめ



◆日時 2022.10.2(日)

◆散策場所 武蔵野公園と富士見公園

- ◆ポイント 樹木の名札付けの確認と反省
- ◆散策ルート 小作駅～武蔵野公園～富士見公園（お昼）～田の上公園～羽村駅
- ◆参加者 羽深さん、石川さん、岡さん、大村さん、太田さん、宇津木さんと
越前の7人 下見 9月14日 6名。

◆感想 参加者からの一言

羽深さん

武蔵野公園は初めて訪れたので、草花や樹木を見れてよかった。

石川さん

羽村の公園へ行くことがなかったが、少しずつ歩き始めたのも幾代会のお陰。

宇津木さん

初めて出会ったショウジョウソウやカラスノゴマも新鮮で、カラスノゴマの名の由来(カラス)に関心を持った。樹木の名札付けへの労いと、今回少し手伝えたことへの満足感。

太田さん

名札を作り付けた頃の苦勞が蘇った。

今回割れた名札がなかったので安心した。田の上公園の、筆で漢字が書かれた名札もよかった。

越前さん

平さんが名札を設置した田の上公園で、例えばヤマモモを素材に幼稚園児を遊ばせるなどの企画も面白いかも。樹木を中心に観察しましたが、それでも、カラスノゴマ、ショウジョウソウ、ベビーサンローズ、ウラジロチチコグサなどの草花も観察できました。

岡さん

羽村を歩いたのは初めてで公園での人々の活動も見れてよかった。

樹木の名札付けへの労いに併せ、むくの木に字を書いたことやシュロ縄を利用したことへの賞賛。耐久性は5-6年大丈夫か。

大村

羽村は駅始め界隈を歩くのも初めて。いつも公園などで樹木名札があればいいと思っていたのでとても嬉しい活動。但し、田の上公園のモミジやシデなど同定は難しそう。

◆10月の植物観察会のポイント

●シデの果実

アカシデとイヌシデの掲載した写真は山溪ハンディ図鑑から引用。

田の上公園で採取したシデは冬芽が赤く毛が無い。

又、果実の形からもアカシデと同定しました。



●ナラ枯れ病

カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌により、コナラ等のブナ科や椎類が集団的に枯渇するナラ枯れが発生しています。

今年（2022年）青梅駅から永山方面を見ると多くのナラ枯れが発生し、樹木名板を設置した富士見公園でも掲載写真のように発生していました。

樹木の表面に粘着剤を塗布したりビニールを巻いたり殺菌剤の樹幹注入することで繁殖を防止できます。

直接の原因は繁殖力の強いカシノナガキクイムシですが、更に突き詰めると人間がもたらした被害とも言えます。

まずクイムシは大径木を好みます。

人間によって木炭にするために増やされたコナラが、人間によって用済みになって放置されたために、コナラの大径木が増えました

もうひとつの理由は、地球の温暖化です。クイムシはある程度暖かい環境を好み、近年の急激な温暖化によって、西日本の暖地で小さな規模で生活していたカシノナガキクイムシが、いっきに分布域を広げた可能性があります。

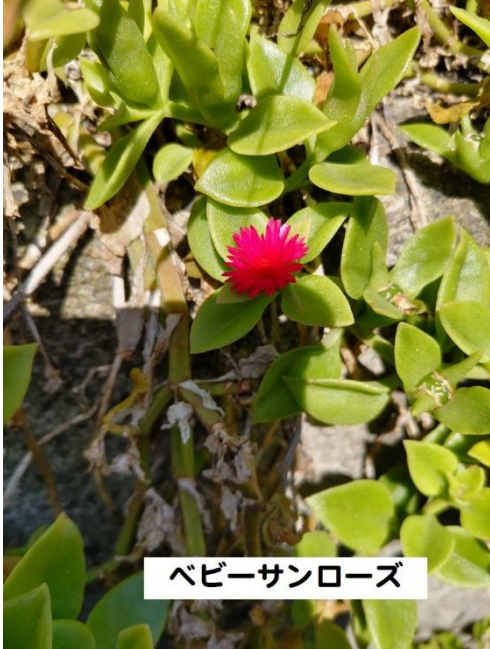
里やまや公園の貴重な樹木が手当てされ、守られればと思います

●観察会に設置した樹木名板

10月2日の観察会追加設置樹木名板

番号	植物名	サイズ	準備枚数	設置個所	設置枚数
1	アオキ	小	2	富士見公園	2
2	アカシデ	大	3		
3	イチョウ	大	3	武蔵野公園	2
4	ケヤキ	大	1	富士見公園	1
5	サザンカ	縦	3	武蔵野公園	1
6	サルスベリ	縦	1	武蔵野公園	1
7	シダレヤナギ	大	1		
8	ツバキ	小	2		
9	トベラ	小	3	富士見公園	3
10	ナンテン	小	1		
11	ヒュウガミズキ	小	2		
12	ミズキ	大	1	富士見公園	1
			23		11

◆散策路の植物



10月の観察会は樹木の名札を付けた羽村の武蔵野公園と富士見公園へどうかな〜〜と、見学に行きました。

参加者がニッコニコと10時に小作駅へ集合。左下奥歯が痛くなった須崎さんが欠席に成り、代わりと言っては何ですが、予定を読み違えていた宇津木さんがヒョッコリ参加できました。

10月とはいえ日差しを避け、影を求めて、目指す武蔵野公園へワイワイと向かいました。石ガキから下がったベビーサンローズ。下見でも見たのに名前は困ったことに度忘れしましたが、名前どおりの花です。ほどなく行くと石川さんが待っている武蔵野

公園。

「石川さ〜〜ン、こっちこっち」

公園中央のイチョウ並木に名札を追加、垂れ下がったプラタナスの名札を締めなおし、羽村市役所公園係に設置して貰った看板を見物。

「しっかりしていて立派ですね〜」設置出来て良かったです。

道路に沿った細長い栄緑地を通過して富士見公園に向かいました。



所々に植栽された立派なメタセコイアの前で宇津木さんがレクチャー

「これはアケボノスギとも言いラクウショウとの違いは〜」

黄色くなり始めた綺麗な葉をまじかに観察。昨年の観察会で見た旧秋川高校の整然と2列に並んだメタセコイア並木を思い出しました。

一年たつのは本当に早いですね。

円錐型の樹形が遠目にも目立ちます。

ヒノキ科、メタセコイア属。

一度、絶滅したと思われたので生きた化石と言われるが、中国で自生したのが発見された。



看板の前で



トウネズミモチ



ウメ



ショウジョウソウ



ヤマボウシ

さらに進むと青梅には無いような立派な梅の木。

「自転車に乗った人が梅を拾いに来るのよ」と地元の石川さん。

トウネズミモチの葉を太陽に透かしネズミモチとの違いの説明は岡さんから。

富士見公園手前の人家には葉を真っ赤にした猩々草に目を奪われました。トウダイグサ科の一年草で花時に上部のバイオリン状の苞葉の基部が真っ赤に色づく。

こぼれ種でドンドン増えます。

栄緑地をひたすらまっすぐ歩いて目的の富士見公園に到着。

富士見公園倶楽部ハウスの脇でお弁当。



パッションフルーツ



カラスノゴマ

こちらでも羽深さんの写真入りの看板を確認。

食後に赤くなったヤマボウシの実を試食。

「あら～～美味しいじゃない」と太田さん。

「奥多摩のセラピーロードのヤマボウシは鳥に食べられて一つも無いのよ」と宇津木さん。

付けそびれた樹木の名札を付け、最終目的地の田の上公園に向かいました。

人家のフェンスにトケイソウのような花を付けるパッションフルーツがフェンスに絡まり見事！



和名、クダモノトケイソウ ツル性の常緑多年草
黄色いゼリー状の果肉と果汁

青梅線の踏切を越えた旭丘公園には黄色い花のカラスノゴマ。

2c前後の長い花柄と反り返ったガクがお洒落です。

アオイ科カラスノゴマ属、花期は8～9月

到着した田の上公園で友達の平さんが取り付けた樹木名板を見学。

「漢字で書くのも良いわねえ」の声。

丸いベンチに座り最後の水分補給。

羽村駅前の交番に入り、写真撮影をお願いしたら、年配のおまわりさんに「若い方が良いか」と

言われイケメンさんに写して貰えました。

お巡りさんとも仲良しになれ、トテモ盛り上がりました。お陰様で10月も皆さんと一緒に晴天に恵まれた楽しい観察会ができました。



2022.10.6
越前記